



貴重書

女

九

例
志
市
志
月
極
元

深川佐賀町

上

國貞画

種彦作

特
19

2
434

国文

24L

43



40. 8. 26

7306531



おはよう
おはよう

小腸差夢の蝶較

種彦 國貞 前編

癸未春 全六冊

今より二十余年の昔菊蝶と笹龍膽の紋ついで
斤袖と画とる千社参りの札と処く小押する事あり是れ
作者の發才めて當時の瀬川兼之丞市川八百藏小阿妻
八郎兵衛の狂言とせさせん計束めて果して大當りとされり
故小彼淨瑠璃小千社参りの女夫連とてやまといぢや
あゝいなと今小致小が羨く又張返し淋く一仕立て
何げても下手といふ垢ぬけのせぬ口惜さ我亭号の柳乃
下ふつて幾代も布子賣人の無ふまご目ハ覺ぬ
夢の蝶較と標題して置ん致

文政 壬午冬稿成
癸未春發市

柳亭種彦識





於^{かつま}禰^ね
八^{やちろ}郎^ら兵^へ衛^ゑ
夢^{ゆめ}小^{せう}撮^{さつ}州^{しゅう}
櫻^{さくら}の^の宮^{みや}小^{せう}詣^ぎ



49



杜作が娘小縫
のちけいやはあつま
後藝者於袴

杜作が
後妻
於竈



葉山真五右衛門が
一子小織之助
後古手屋
八郎兵衛

星影元衛門の
側室梅の井



香具屋
矢兵衛

土弓場の矢取女
於才



の巻より けさうけれらる
 一しうごんべまがちらけん
 今人助のまをちのふけ
 三つしうせんをれらる
 まさうゆうまをちらけん
 ぬるうひておんけられ
 むののわんてふの
 ぎうくまをちらけん
 うひまが今をちらけん
 うひあふの町人かちらけん
 あがけおいれがれけん
 三つしうひまをちらけん
 むののわんてふの
 むののわんてふの
 まさうゆうまをちらけん
 よくこのんげまをちらけん
 女かこたてまをちらけん
 むひおんげまをちらけん
 むののわんてふの
 せむおんげまをちらけん
 四十あまうひまのぬ十七八あま
 かつぬまうひまのぬ十七八あま
 三つしうまをちらけん
 とちらけん
 ござん



の巻より けさうけれらる
 一しうごんべまがちらけん
 今人助のまをちのふけ
 三つしうせんをれらる
 まさうゆうまをちらけん
 ぬるうひておんけられ
 むののわんてふの
 ぎうくまをちらけん
 うひまが今をちらけん
 うひあふの町人かちらけん
 あがけおいれがれけん
 三つしうひまをちらけん
 むののわんてふの
 むののわんてふの
 まさうゆうまをちらけん
 よくこのんげまをちらけん
 女かこたてまをちらけん
 むひおんげまをちらけん
 むののわんてふの
 せむおんげまをちらけん
 四十あまうひまのぬ十七八あま
 かつぬまうひまのぬ十七八あま
 三つしうまをちらけん
 とちらけん
 ござん



の巻より けさうけれらる
 一しうごんべまがちらけん
 今人助のまをちのふけ
 三つしうせんをれらる
 まさうゆうまをちらけん
 ぬるうひておんけられ
 むののわんてふの
 ぎうくまをちらけん
 うひまが今をちらけん
 うひあふの町人かちらけん
 あがけおいれがれけん
 三つしうひまをちらけん
 むののわんてふの
 むののわんてふの
 まさうゆうまをちらけん
 よくこのんげまをちらけん
 女かこたてまをちらけん
 むひおんげまをちらけん
 むののわんてふの
 せむおんげまをちらけん
 四十あまうひまのぬ十七八あま
 かつぬまうひまのぬ十七八あま
 三つしうまをちらけん
 とちらけん
 ござん

五

五



Vertical Japanese text columns on the left page, likely a narrative or dialogue.



Vertical Japanese text columns on the right page, likely a narrative or dialogue.

Handwritten text in the top left corner of the left page, written in a vertical column.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, written in a vertical column.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, written in a vertical column.

三の巻のついでに... 三の巻のついでに... 三の巻のついでに...



三の巻のついでに... 三の巻のついでに... 三の巻のついでに...

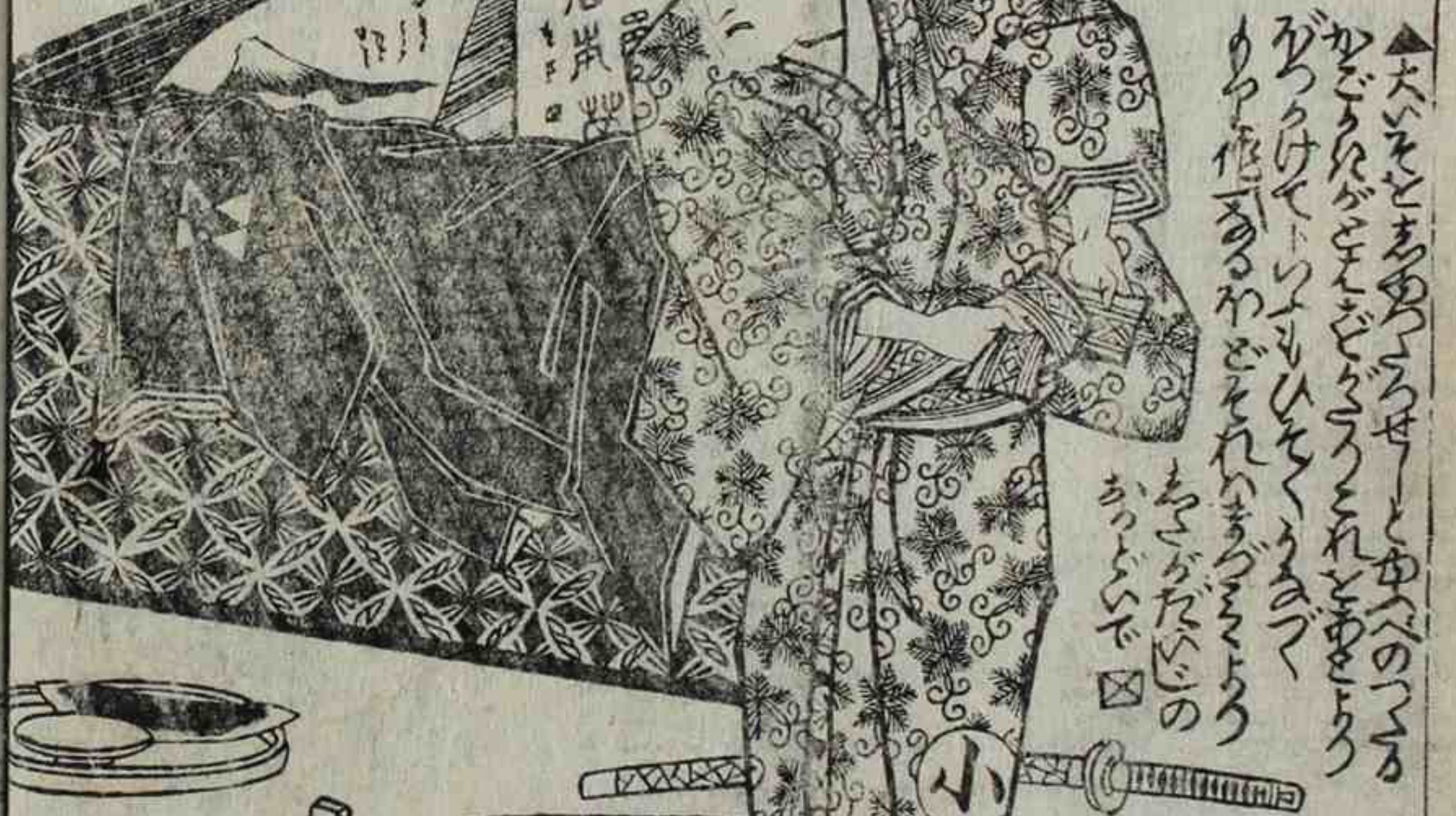
三の巻のついでに... 三の巻のついでに... 三の巻のついでに...



三の巻のついでに... 三の巻のついでに... 三の巻のついでに...

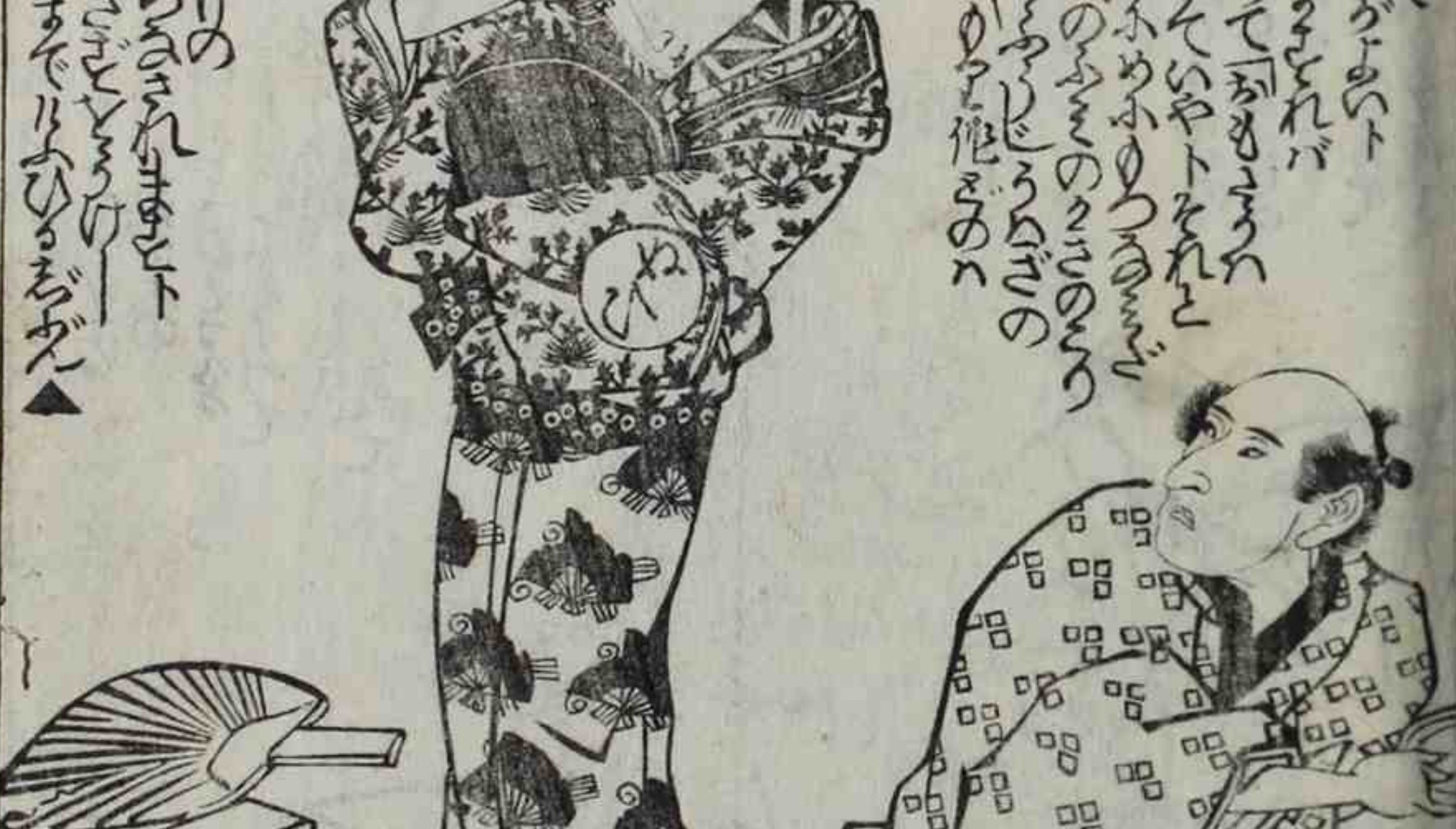
〇大いそとああらうせしとあ人のいなる
 かごらなごんごらうらうれとあまうら
 ひらうけとていしひとてうらうらう
 ものたあるわとそれらまうらう
 あごたごの
 ちうごの
 ちうごの
 ちうごの

〇大いそとああらうせしとあ人のいなる
 かごらなごんごらうらうれとあまうら
 ひらうけとていしひとてうらうらう
 ものたあるわとそれらまうらう
 あごたごの
 ちうごの
 ちうごの
 ちうごの



〇大いそとああらうせしとあ人のいなる
 かごらなごんごらうらうれとあまうら
 ひらうけとていしひとてうらうらう
 ものたあるわとそれらまうらう
 あごたごの
 ちうごの
 ちうごの
 ちうごの

〇大いそとああらうせしとあ人のいなる
 かごらなごんごらうらうれとあまうら
 ひらうけとていしひとてうらうらう
 ものたあるわとそれらまうらう
 あごたごの
 ちうごの
 ちうごの
 ちうごの



〇大いそとああらうせしとあ人のいなる
 かごらなごんごらうらうれとあまうら
 ひらうけとていしひとてうらうらう
 ものたあるわとそれらまうらう
 あごたごの
 ちうごの
 ちうごの
 ちうごの

歌川国貞画

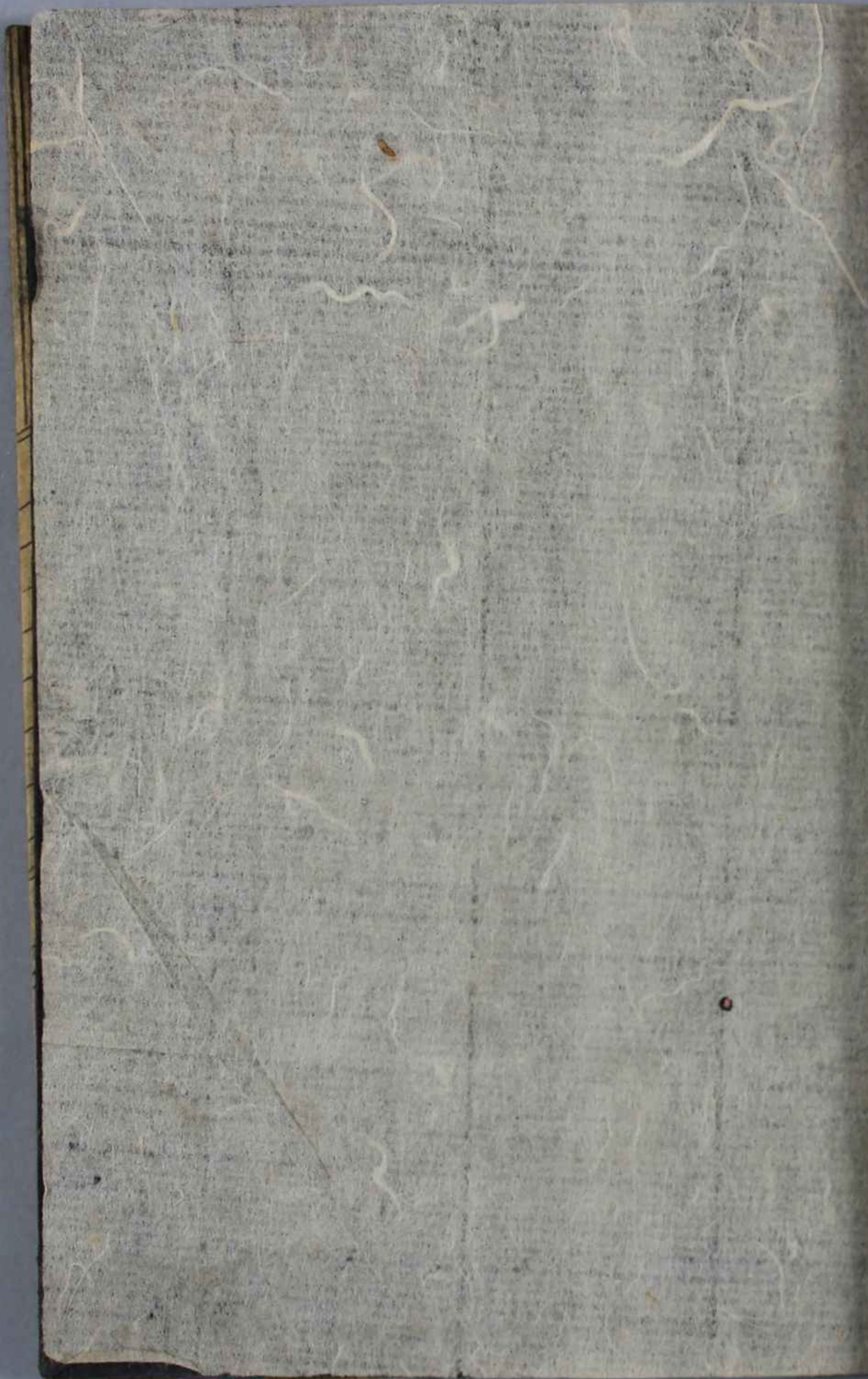
柳亭種彦作



ふけて
 こい
 かんつめのあつむがておのひいよぬ
 こんちやうとてこゝろみわけておらう
 かたゆらうとせらるるあつむがれは
 こゝろみわけておらうとて
 のそれいこゝろのそんぬ
 まつるまゝあつむがれは
 かうとてくせうとて
 つまらぬとてけしき
 りとそれいこゝろのそんぬ
 のの まゝあつむがれは

△いざ
 こゝろのそんぬ
 まつるまゝあつむがれは
 かうとてくせうとて
 つまらぬとてけしき
 りとそれいこゝろのそんぬ
 のの まゝあつむがれは

△ぬらうと
 こゝろのそんぬ
 まつるまゝあつむがれは
 かうとてくせうとて
 つまらぬとてけしき
 りとそれいこゝろのそんぬ
 のの まゝあつむがれは





お洗濯
小脇差
夢蝶
敷
冊六

男

種彦作
國貞画

下
種彦

伊藤



あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん
 あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん
 あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん

あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん
 あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん
 あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん

あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん

あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん
 あつてせうへん入る男あつて
 それとせうへんもあつて入る
 まつたのうへん

お作海 種彦作
 心即三海 國貞画
 益文法ゆめとさうめ較さうめ後編
 伊藤屋梓

Handwritten text in the upper right section of the right page, written vertically in a cursive style.



Handwritten text in the lower right section of the right page, continuing the vertical writing style.

Handwritten text in the upper left section of the left page, written vertically.



Handwritten text in the lower left section of the left page, written vertically.



柳亭所好
新形年初状
浅草市の日 黒船町
うらゆ
やん
村田店



柳亭所好
新形年初状
浅草市の日 黒船町
うらゆ
やん
村田店



柳亭所好
新形年初状
浅草市の日 黒船町
うらゆ
やん
村田店

柳亭所好
新形年初状
浅草市の日 黒船町
うらゆ
やん
村田店



十の如く
 今更なる
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり

たんね
 うひさり
 十の如く
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり



此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり

その如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり

此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり
 何れに
 由らば
 此の如く
 事なり

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, arranged in vertical columns on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns on the right side of the page, surrounding the illustration.

Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns on the right side of the page, surrounding the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a preface or introductory text, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text from the top of the page, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

◎ 七五

文政六年十月
 古手屋店

此圖乃日本浮世繪師所繪，
 描寫一武士在店前，
 其衣冠華麗，佩帶腰刀，
 正欲與店員交易。店員
 則在櫃檯後，手持算盤，
 計算帳目。此種場景，
 實為江戶時代市井生活
 之縮影。武士之裝束，
 包括羽織、袴及腰刀，
 均極其考究。而店員之
 算盤，則為當時商業運
 算之重要工具。此圖之
 筆法細膩，人物神態生
 動，實為浮世繪中之傑
 作。



此圖乃日本浮世繪師所繪，
 描寫一武士在店前，
 其衣冠華麗，佩帶腰刀，
 正欲與店員交易。店員
 則在櫃檯後，手持算盤，
 計算帳目。此種場景，
 實為江戶時代市井生活
 之縮影。武士之裝束，
 包括羽織、袴及腰刀，
 均極其考究。而店員之
 算盤，則為當時商業運
 算之重要工具。此圖之
 筆法細膩，人物神態生
 動，實為浮世繪中之傑
 作。



Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary. The text is written in a cursive style (kuzushiji) and occupies the upper and lower portions of the page, surrounding the central illustration.



Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary. The text is written in a cursive style (kuzushiji) and occupies the upper and lower portions of the page, surrounding the central illustration.





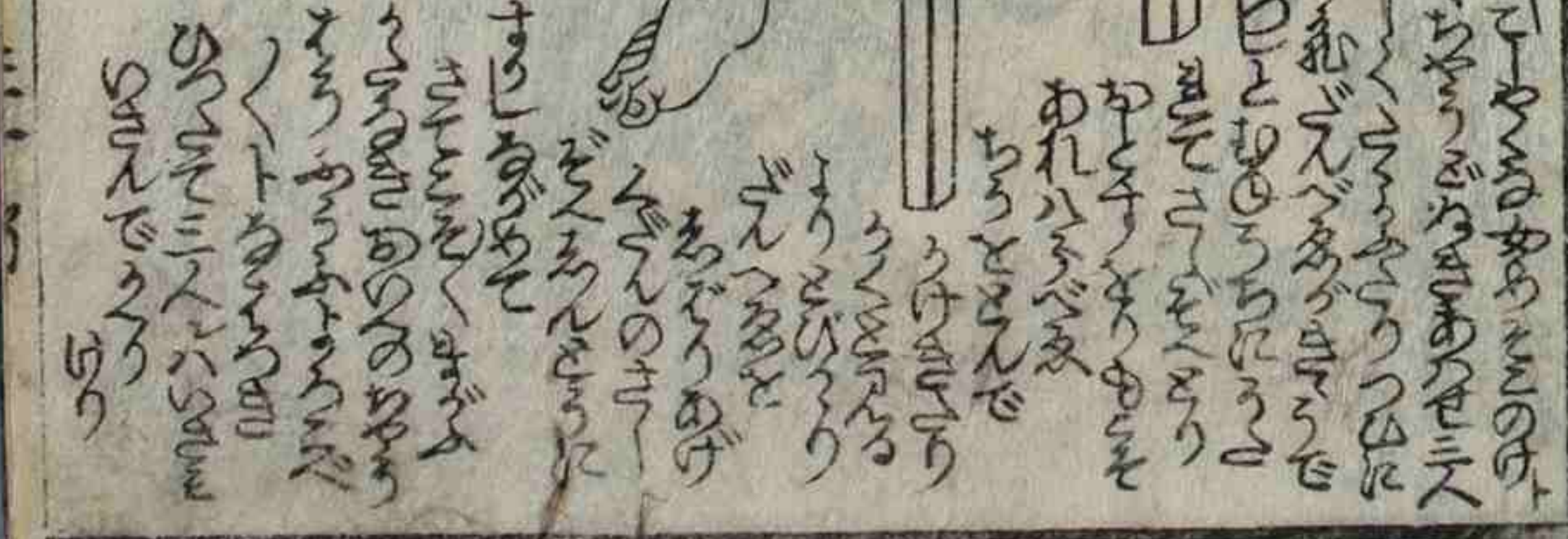
Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, arranged in vertical columns on the left side of the page.



Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns on the right side of the page.



Handwritten text in a cursive script, arranged in vertical columns on the left side of the page.



歌川國貞画 柳亭種彦作



御成道 美艷仙女香白一包四拾八文

此傳 予くく八喜保十一年廿一番乃取主伊字九と云
 清朔人長崎 偶あるの時九山中の近江屋の遊女菊野小
 授る顔の美れ奇方あり傳くは清朔の今中宮中
 婦人常に此業と用く遊と成るを右の傳方故に
 年が家不傳くは此友世に弘むものあり今世上不類
 の業と稱するものありと云く無くは其も初業に
 まらざるものありは家方は此業別種の奇刻を
 世上の類のなきと一列不下看るものと云くは
 功徳左不志るに



書
度